

令和元年度地方創生推進交付金事業評価

○ 目次

- (1) とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略
- (2) 四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略
- (3) 徳島東部地域におけるDMO推進
- (4) 労働力人口の確保プロジェクト

令和元年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 1

事業の名称	とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略					
事業の概要	徳島県等と連携して徳島市の「藍製品」をはじめ「木工・木製品」「食材・食品」等の地域産業の高付加価値化に向けた新商品の開発支援や域内消費の拡大、販路拡大に取り組む。	総合戦略における位置付け（基本目標）	若者の夢は徳島市で実現する			
		KPI(重要業績評価指標)	実績値(H30)	実績値(R1)	目標値(R1)	
			地域資源活用高付加価値商品数（累計）	10商品	16商品	30商品
			農商工連携により開発した商品数（累計）	8商品	8商品	5商品
事業期間	平成28年10月～令和3年3月	アンケートにより、販路拡大に効果があったと回答した事業者割合	100%	93%	90%	
令和元年事業費 ()内は予算額	14,624千円(23,551千円)					
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)	取組の成果・課題		今後の方向性		効果	
「藍製品」「木工・木製品」「食材・食品」等の地域産業の商品力強化とブランド化	国内外の消費者に対して、徳島の地域資源である藍と木工をPRするための動画を制作し、首都圏や関西において動画を活用したプロモーション活動を実施。また、藍染の魅力をイベント等で発信するため、タペストリーや藍染め体験パンフレットの制作を行ったが、新商品開発数が6商品であったことから目標には達しなかった。		継続	令和元年度に制作したPR動画やこれまでの事業で制作した商品を活用し、オリンピック開催前の首都圏において、藍に関するプロモーションを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止しており、実施が困難な状況にある。しかし、県民に向けて、地域資源の魅力発信を行う必要があることから、徳島市産業支援交流センターにおいてPRを行う。		
とくしま地域資源活用支援事業（施策8-2 地域産業の振興）						
地域資源について、歴史や文化的な背景、地域資源活用に取り組む事業者が有する特有の技術や新たな活用などについての情報発信等を行い、地域資源を活用した商品の増及び地域資源のブランド力の強化、知名度向上を目指す。						
農商工連携等支援事業（施策8-1 農林水産業の振興）	令和元年度は本事業の補助金を活用し新商品の開発を行う事業者はいなかった。理由としては、補助の上限が20万円と低く、新商品の開発に使いにくいという声があった。県の6次産業化推進連携協議会と共同で行っている首都圏商談会への参加事業では昨年度を上回る事業者の参加があった。		見直し	他市町で行っている同様の事業等を調査したところ、補助の上限を本市より高く設定しているところがほとんどであったため、令和2年度は、補助金の本数を減らし上限を50万円まで上げることで、使いやすく改善している。		
6次産業化に意欲ある生産者や商工業者等への支援を行い、地域資源を活用した高付加価値商品の開発・販路開拓を支援することにより、地域資源を軸とした地域産業の活性化を目指す。						
中小企業販路拡大支援事業（施策8-2 地域産業の振興）	販路拡大のための補助制度を利用した事業者は15事業者で、そのうち新規利用者は5社であった。IT導入支援のための専門家派遣は5社に対し支援を実施した。また、専門家による経営相談窓口や専門家派遣によるフォローアップ、さらに販路拡大セミナーを実施した。		継続	補助制度や専門家派遣など好評であることから、昨年に引き続き事業を行う。ただし、制度を利用する事業者の固定化が見られることから、制度の周知をこれまで以上に図るとともに、相談窓口の回数を増やし相談業務の拡充を図り、企業の販路拡大支援や経営力強化の支援に努める。		
中小企業に対し、製品開発から販路開拓までの支援を実施し、大規模市場等での競争力強化を目指すとともに、中小企業の海外市場調査や認証取得に係る支援を行うことで、海外への販路拡大も視野に入れた取組を進めていく。						

令和元年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 2

事業の名称	四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略				
事業の概要	県等と一層連携して、国内外からの観光客拡大・宿泊者の増加等に向けて、誘客の促進等に取り組むことにより、交流人口の増加と地域の活性化を図る。	総合戦略における位置付け（基本目標）		“心おどる水都・とくしま”が一番面白い	
		KPI(重要業績評価指標)	外国人宿泊者数	実績値(H30)	実績値(R1)
4.1万人	4.0万人			4.8万人	
事業期間	平成29年4月～令和3年3月				
令和元年事業費 ()内は予算額	16,420千円(15,801千円)				
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)	取組の成果・課題		今後の方向性		効果
外国人観光客倍増等に向けた誘客促進事業・個人旅行向け観光プロモーションの強化	ひょうたん島周遊船定期運航業務を委託し、約4万9千人の観光客に水都とくしまの魅力を体験していただいた。また、徳島市阿波おどり期間中に屋形船での邦楽演奏や大型船寄港に伴い、歓迎セレモニーや阿波おどり演舞など乗船客に対しておもてなしと本市の観光の魅力発信を行った。		継続	引き続き本市に入港する大型客船への歓迎セレモニーの実施等によるおもてなしを行い、本市へのリピーターとなる観光客獲得を図る。	相当程度効果があった
インバウンド対応事業 (施策7-3 観光・交流の促進) 外国人観光客をはじめ国内外からの観光誘客を促進するため、県等と連携して、徳島市に寄港する客船の歓迎、キャンペーン等を行う。	インフルエンサーの招へいや台湾での観光セミナーの開催、香港向けに外国人アドバイザーによる徳島市内観光施設視察を行い、外国人観光客の誘致を図った。		継続	阿波おどりをはじめとする観光資源の魅力を積極的に発信し、令和元年度に実施したインフルエンサーを通じた情報発信を組み合わせ、徳島市の観光に興味がなかった層にまで、効果が波及するよう積極的な情報発信策を展開し、訪日外国人旅行者を誘客し、地域経済の活性化を図る。	相当程度効果があった
インバウンド誘客事業 (施策7-3 観光・交流の促進) 阿波おどりをはじめとする観光資源の魅力を発信するとともに、実際に徳島市の魅力に触れ、体験した観光客を取り込み、「徳島市ファン」の拡大を図る。	国内外に向けた情報発信を行うため、観光資源の魅力を詰め込んだ徳島市公式観光サイト「Fun!Fun!とくしま」の発信を実施した。また、徳島市イメージアップキャラクター「トクシィ」を活用したPR活動を通じて地域資源の情報を発信した。		継続	交流人口の増加による地域の活性化や、市民の愛着度の向上を目指して、阿波おどりや豊かな水辺環境、文化、歴史、特に世界から注目を集めている「阿波藍」など、本市の地域資源の魅力を市内外に発信する。また、姉妹都市との物品の交流、マイクロツーリズムの推進、地元de宿泊応援キャンペーン等により、様々な形で魅力を発信し、地域の特性の発見を図る。	相当程度効果があった
水都・とくしま魅力発信事業 (施策7-3 観光・交流の促進) 本市の認知度向上や、本市への来訪意識の喚起を図るため、徳島市観光WEBサイトを活用し、阿波おどりをはじめとする本市のさまざまな観光資源の魅力を国内外に向けた戦略的な情報発信に取り組む。					

※事業費は地方創生推進交付金の対象外経費も含む。

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（企業版ふるさと納税）活用事業

取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)	寄附実績	取組の成果・課題	今後の方向性		効果
インバウンド誘客事業 (施策7-3 観光・交流の促進) 同上	0千円	同上	同上	同上	同上

令和元年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 3

事業の名称	徳島東部地域におけるDMO推進				
事業の概要	徳島県東部地域15市町村及び民間事業者が連携し、観光消費額の増加による地域経済の活性化や住民愛着度の向上を目的とした徳島東部地域DMOを設置し、官民が一体となって、戦略的なマーケティング、情報発信の強化、誘客・送客・流通促進、広域連携による観光地域づくりの推進等の観光振興を推進することで、交流人口の増加や圏域の活性化を図る。	総合戦略における位置付け（基本目標）	“心おどる水都・とくしま”が一番面白い		
		KPI(重要業績評価指標)	宿泊者数	実績値(H30)	実績値(R1)
事業期間	平成30年4月～令和3年3月			69.9万人	67.6万人
令和元年事業費 ()内は予算額	22,780千円(22,780千円)				
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)	取組の成果・課題	今後の方向性			効果
徳島東部地域DMO推進事業 (施策7-3 観光・交流の促進)	阿波おどり会館、十郎兵衛屋敷など180所で来訪者アンケートによる実態調査、ホームページ分析を行った。(958回収) 東京・大阪・名古屋・静岡・台湾・香港・オーストラリアなど、国内外の現地旅行会社との商談会に参加し、また、セールスコールを行った。 また、観光地域づくり事業では、観光コンテンツの造成支援や特産品のPR及び販売促進を行い、観光客誘致を図った。	継続	官民が一体となって事業戦略に基づき観光地域づくりを実施するものであり、観光消費額の増加及び住民愛着度の向上が地域活性化に効果的であることから、今後も継続をしていく。 また、徳島東部圏域が儲かるような商品や地域文化のネットワークづくり等、ニーズの多様化に対応した観光商品の開発を検討する。		相当程度効果があった
地域と協同しながら観光地づくりなどの観光振興全般にわたる業務を担うDMOを官民一体となって運営する。 【DMO】 観光地域づくりの舵取り役を担う法人					

※事業費は地方創生推進交付金の対象外経費も含む。

令和元年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 4 (1/2)

事業の名称	労働力人口の確保プロジェクト					
事業の概要	ワークライフバランスの向上や女性活躍の推進を図り、潜在的な労働力の活用や生産性向上に取り組む。また、高校生が地域創生や国際理解を深めるための取組を推進するなど、若者の地元定着やキャリア形成を図る。さらに、徳島市で夢を叶えたい女性や若者等を対象とした創業支援等を通じて、地域社会で活躍する人材育成や地域経済の活性化を促す。	総合戦略における位置付け（基本目標）	若者の夢は徳島市で実現する			
		KPI(重要業績評価指標)	実績値(R1)	計画値(R1)	目標値(R3)	
			事業を通じたセミナー・講座等の参加者数	446人	410人	410人
			事業を通じたワークライフバランスの取組企業数	7社	8社	8社
事業期間	令和元年4月～令和4年3月	事業を通じた徳島市内における新規就業者数	7人	14人	14人	
令和元年事業費 ()内は予算額	11,201千円(13,367千円)					
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		今後の方向性		効果
<p>潜在的な労働力の活用や生産性向上に向けた取組</p> <p>とくしま女性活躍推進支援事業(施策8-4 働く環境づくりの推進)</p> <p>女性がその個性と能力を十分に発揮し仕事をしていくために必要なスキルを身につけるセミナーを開催するとともに、それぞれのライフステージに合った多様な働き方について考える機会を提供することで、女性が活躍できる環境づくりの推進に取り組む。</p>		<p>女性に加え、40歳未満の男性も対象とし、就職・再就職やスキルアップのためのセミナーを全13回実施した。参加者からのセミナー終了後アンケートでは、有意義であったとの相対評価を得ており、再就職やスキルアップに役立った。</p>		継続	<p>セミナー内容の検討を行い、参加者のニーズに合った講座を提供していく。</p>	非常に効果的であった
<p>ワークライフバランス推進事業(施策8-4 働く環境づくりの推進)</p> <p>女性をはじめとした潜在的労働力を活用し、生産性向上を図るとともに、「暮らしやすい」「子育てがしやすい」環境づくりを進めることで、地方で就職する若者を創出し、若者の力を活用するため、企業のワークライフバランス向上に向けた取組を支援する等、働き方改革を進める。</p>		<p>市ホームページや広報紙のほか、関係団体が主催するセミナー等の機会をとらえ、積極的に周知を行ったことにより、7社が働き方改革宣言と宣言内容を踏まえた制度整備を行った。</p>		発展	<p>平成30年4月から、働き方改革関連法が順次策定されていることに加え、新型コロナへの新しい働き方を推進するため、支援項目の追加や見直しを図っていきたい。</p>	相当程度効果があった

令和元年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 4 (2/2)

取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)	取組の成果・課題	今後の方向性	効果
<p>地域社会で活躍する人材育成や地域経済の活性化に向けた取組</p> <p>創業促進事業（施策8-2 地域産業の振興）</p> <p>創業予定者、若年UIJターン者、女性・若者、クラウドファンディング活用者、創業後間もない事業者を対象に創業に要する経費や事業の発展に要する経費の一部を補助し、雇用の創出等を促す。</p>	<p>創業支援事業者と連携し、創業支援相談会、セミナー等を開催するとともに、創業予定者等を対象に、創業に要する経費又は事業の発展に要する経費の一部を補助した。</p>	<p>継続</p> <p>本事業は、新たな創業を行おうとする者に対し、知識やノウハウ並びに資金面での支援を行うことにより、新たな産業の創出や雇用の場の確保、本市経済の活性化を図るものであり、今後とも引き続き支援するとともに、高校生等の若年者に対しても働きかけ、創業機運の醸成を図る。</p>	<p>相当程度効果があった</p>
<p>若者のキャリア形成支援（グローバル人材の育成）や地元定着に向けた取組</p> <p>市高中生次世代プロデュース事業（施策1-2 学校教育の充実）</p> <p>高大連携教育を展開し、「徳島の魅力再発見」事業等の地域連携教育や留学生との交流等の国際連携教育を推進することで、市高生の地元への愛着を深めるとともに、次世代の徳島市を担う人材の育成を行う。</p>	<p>令和元年度は、キャリアガイダンス、高大連携事業、地域創生講座、学校防災人材育成講座、異文化交流事業、多言語ラボ等を実施した。より多くの生徒が参加できる事業の創出が求められる。</p>	<p>見直し</p> <p>新型コロナウイルス感染症により実施ができなくなると想定される事業については、遠隔実施などの代替案を検討するなど、新たな方法での事業の展開を図る必要がある。</p>	<p>相当程度効果があった</p>

※事業費は地方創生推進交付金の対象外経費も含む。

令和元年度地方創生推進交付金事業の評価・意見 NO. 1

事業の名称	
とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略	
評価	
非常に有効であった 0人	相当程度有効であった 4人
有効であった 3人	有効でなかった 0人
意見	
<p>K P I の 3 つの指標のうち、2 つの指標で実績値が目標値を上回っており、本事業が順調に進められていることが伺える。ただし、地域資源活用高付加価値商品数が目標の半分程度であり、また、本年度に農商工連携により開発された商品数がゼロであったことを踏まえると、今後、新商品の開発支援部分に注力することが急務である。</p>	
<p>本事業は、取組が実施できていないものも見受けられ、事業の K P I を達成できていないものが散見される。ただし、K P I を達成し、成果を出している取組もあり、雇用創出という基本目標の K P I は目標値を上回っているため、地方創生にとって有効であったと言える。</p> <p>一方で、動画を活用したプロモーション活動が、イベントの中止により実施が困難になったとあるが、動画の配信であれば、イベントで接触しなくても配信する方法があると思われ、配信方法を工夫すると、更に本事業が効果的になったと考えられる。</p> <p>また、補助金を活用し、新商品の開発を行う事業者がいなかったとあるが、単に補助金の上限を他の補助金と同程度にすることで、補助金を活用した新商品開発を行う事業者が増加するか疑問がある。</p>	
<p>本事業については、K P I を下回った取り組みもあるものの概ね効果があったものと考えられる。</p> <p>また、取組内容は基本目標を達成するために効果的なものとなっている。特に、中小企業販路拡大支援事業については新規利用も見られ評価したい。</p>	
<p>本事業は、事業の K P I を大きく上回ることはなく、H 3 0 の実績値と比べて変化なし、減少している項目があるが、地域創生にとって有効だったと思う。</p> <p>取組の内容が基本目標の方向性とあまりあっていないように思う。今後の方向性に書かれてあるように、「若者の夢」を叶える為の新商品の開発の補助の上限を高く設定することで選択の幅を広げるとより効果的になると思う。</p>	
<p>グローバル展開戦略の効果が見えづらい。効果が現れるまで時間を要すると思うが、進捗を把握できるよう数値目標等分かりやすく設定すべきではないか。</p>	
<p>新型コロナの影響があるので、Web を通じた PR に注力し、その効果をはかる KPI に変更すべきである。</p>	
<p>「地域資源高付加価値商品数」「農商工連携により開発した商品数」ともに目標値を下回っているため、この評価とした。</p> <p>徳島の地域資源の筆頭には「藍」が取り上げられるが、それは徳島市の単体 P R よりも、むしろ県内の関係自治体の広域連携によるプロモーションを積極的に行うことを考えたほうが良いのではないだろうか。</p> <p>全国の自治体による P R 動画の作成が盛んであるが、配信後のアクセス数を把握すること、作りっぱなしにしないこと（バージョンをアップしていくこと）が重要である。</p> <p>新設された徳島市産業支援交流センターは、異業種や異素材による情報交流や商品開発の「化学反応の場」としての役割を果たすことを期待している。</p>	

令和元年度地方創生推進交付金事業の評価・意見 NO. 2

事業の名称	
四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略	
評価	
非常に有効であった	0人
有効であった	4人
相当程度有効であった	3人
有効でなかった	0人
意見	
<p>K P I の実績値が目標値に届いていない。また、各取組における「取組の成果・課題」に関して、課題に関する記載がなされていない。K P I の目標値に届かなかった原因を丁寧に分析・評価したうえで改善が図られているか、確認する必要がある。</p>	
<p>本事業は、各取組のK P I が伸び悩んでおり、達成できるか難しい状況にあるものの、取組自体は着実に推進できているため、地方創生にとって有効であったと言える。</p> <p>インフルエンサーの活用、セミナー、観光施設視察により、外国人観光客が実際にどの程度流入があったのか、個別のチャンネル毎に検証し、有効であったチャンネルに注力して、次年度以降の施策とするとより効果が表れると考える。</p>	
<p>K P I が目標値を下回ったものの取組については一定の成果があったものと考えられる。</p> <p>ただし、新型コロナウイルスの影響から今後の方向性については、慎重な検討が必要ではないか。</p>	
<p>本事業は、事業のK P I は上回っていないものの、地域創生にとっては有効であったと思う。</p> <p>「水都」と関連付けて周遊船定期運航業務を委託、大型船寄港など水都をアピール出来ていると思う。阿波踊り、水都、藍という現在の強みを押し出すのは勿論、これらの要素に加えて、東京等の都会で若者に支持されている事業（食品やイベント）を追加することで、県内から県外への需要も高めていけるのではないか。</p>	
<p>徳島県の交流人口増加を図る上では重要な取り組みである。インバウンド誘客事業については効果が見えにくく、例えば①阿波おどり会館の外国人来場者数（2F 見学）や②ひょうたん島周遊船の外国人利用者数など、本事業にて観光資源の魅力を発信したコンテンツについてK P I を設定してはどうか（数的進捗確認要）。</p>	
<p>新型コロナの影響があるので、Web を通じたPR に注力し、その効果をはかるKPI に変更すべきである。</p>	
<p>観光産業の中でも特にインバウンドについては、政治や社会状況の変化に大きく影響を受ける。特に、大型クルーズ客船の寄港の有無は、徳島市内のインバウンド（宿泊の如何にかかわらず）の数を左右すると考える。</p> <p>インバウンドの志向が、「純日本的有名観光地」から「心地よい地方都市」へ、さらに「田舎ぐらし＋感動エンタテイメント体験」へと変化している現状で、徳島の独自性（少々とがった個性の方が良いとおもわれる）をみがくことが求められている。阿波おどりと藍は重要なコンテンツではあるが、その伝統に何か新奇性を加えることを検討する時期ではないだろうか。</p>	

令和元年度地方創生推進交付金事業の評価・意見 NO. 3

事業の名称	
徳島東部地域におけるDMO推進	
評価	
非常に有効であった 0人	相当程度有効であった 2人
有効であった 4人	有効でなかった 1人
意見	
<p>K P I の実績値が目標値に届いていない。また、各取組における「取組の成果・課題」に関して、課題に関する記載がなされていない。K P I の目標値に届かなかった原因を丁寧に分析・評価したうえで改善が図られているか、確認する必要がある。なお、K P I は「宿泊者数」のみでよいのか？</p>	
<p>本事業は、K P I が伸び悩んでおり、かつ、昨年度の実績を下回っており、達成できるか難しい状況にあり、取組自体も進捗が芳しくないため、地方創生にとって有効ではなかったと考える。</p> <p>アンケート調査について180箇所で開催したとあるが、ホームページと合わせて958件となっており、回収が充分でないように思われる。どのように実施すれば、回収件数が上がるのか検討すると、回収件数が上がり、より実態把握ができるようになると思われる。</p>	
<p>K P I が目標値を下回ったものの取組については一定の成果があったものと考えられる。</p> <p>NO. 2と同じになるが、新型コロナウイルスの影響を考えると今後の方向性については十分な検討が必要になると考えられる。ただし、住民愛着度の向上についてはコロナの影響を抜きにして今後もすすめていってほしい。</p>	
<p>本事業は、事業のK P I は目標値に届いていないものの、地域創生にとって相当程度有効であったと思う。</p> <p>県外でのP R、販売促進行動は、県外の方からの注目や興味を集め、観光客誘致を図ることにつながると思う。</p> <p>観光消費額の増加は、県外からの注目だけでなく、県内の活性化も狙うことができると思うので、増加を狙って観光商品の開発を検討していくことが地域創生につながると思う。</p>	
<p>徳島市においては、本DMO以外に観光を推進する母体がなく、DMOに対しては積極的な支援が必要となる。なかでもインバウンド誘致に関しては特に重要と思われる。広域エリアへ思考力発信を行っており、今後更に15市町村の連携強化が望まれる。</p>	
<p>宿泊者の増加を指標とすべきである。K P I の指標変更が必要ではないか。</p>	
<p>東部DMOについては、活発に活動を展開していることを評価したい。</p> <p>ただ、K P I が宿泊者数のみになっているが、他の観光指標も加えてはいかがだろうか。</p> <p>地域ブランド調査においても、認知度、魅力度、情報接触度、訪問意向、購買意向など多くの面で、徳島はそのポテンシャルを十分に発揮できているとは言い難い。中でも、やはり認知度の低さがすべての指標の低さにつながっているところから、徳島市に関する情報接触度を高める工夫が必要と考える。</p>	

令和元年度地方創生推進交付金事業の評価・意見 NO. 4

事業の名称	
労働力人口の確保プロジェクト	
評価	
非常に有効であった	0人
有効であった	3人
相当程度有効であった	4人
有効でなかった	0人
意見	
<p>K P I の 3 つの指標のうち、実績値が目標値を上回っているのは 1 つだけではあるが、ワークライフバランスに関する指標の実績も悪くなく、全体としては一定の成果が出ているのではないかと推察される。なお、K P I の徳島市内における新規就業者数の増加に向けては、セミナー開催後の雇用・創業等の支援も重要になると考えられる。</p>	
<p>本事業は、各取組の K P I が伸び悩んでおり、達成できるか難しい状況にあるものの、取組自体は着実に推進できているため、地方創生にとって有効であったと言える。</p> <p>とくしま女性活躍推進支援事業は、セミナーは有用であると言えるのか。単にセミナーを聞きたいという方はいると思われるが、実効性のあるセミナーの開催が望まれる。</p>	
<p>取組内容は基本目標の達成に合致しているが、K P I のうちの基本目標の事業を通じた徳島市内における新規就業者数が計画値を大きく下回っている点が気になる。</p> <p>取組内容については、特に創業促進事業について創業後のモニタリングも含めて頑張ってもらいたい。</p>	
<p>本事業は、事業の K P I を満たしていることから、地域創生に有効的であったと考える。</p> <p>基本目標と各取組の方向性も合っており、働き方改革関連法が順次策定されていることや、新型コロナと向き合ったウィズコロナの事業の展開を図ることが、重要であると感じた。</p> <p>また、新たな創業を行うものに対する支援を行うことは、他事業の K P I を高めることにもつながると思う。</p>	
<p>セミナーに関しては、WEB や動画配信を活用することで、時間や場所に制限されず何度でも視聴できて良いのではないかと。</p> <p>多様な働き方が可能な企業（時短勤務やフレックス、テレワーク等の制度が整備されているだけでなく、実際に利用しやすい風土が醸成されている企業）とセミナー受講者のマッチング等、一歩踏み込んだ取り組みを行うことで、雇用の創出や子育て等との両立支援（女性の活躍推進）、再就職後の定着率上昇に繋がるのではないかと。また、ワークライフバランス取組企業の制度導入後の利用状況等を確認し利用率を高める取り組みを行えると、より暮らしやすく働きやすい環境づくりに繋がると思う。</p>	
<p>方向性として、特に「時差出勤」「在宅ワークの充実」のテーマで考えてもらいたい。</p>	
<p>女性が活躍できる街・企業は、男性も含めて誰もが活躍できる街・企業である。今後の施策としては、女性活躍からダイバーシティへと視点を拡大することが必要だと考える。また、ワークライフバランスの推進と働き方改革については、アウトソーシングやクラウド活用、リモートワークの導入など企業内環境整備とセットで考えなければならない。また、人事評価、裁量労働、成果測定など、これまでの労働に関する「常識」部分を打破するための意識改革には、セミナーや掛け声だけではなく大きなパワーで向かっていかなければならない。「ダイバーシティ徳島市」を是非推進していただきたい。</p>	